

■神谷美恵子 精神科医。転変の後、念願の救療に従事、文筆など幅広い活動で、多様な生涯を送った。

かみやみえこ

第一次大戦始1914＝ 岡山市で、岡山県視学官だった\_前田多門の長女に生まれる。

21ヶ条要求・1915＝ 1歳：長崎経て、父が内務省本省勤務となり、東京に転居。

本格政党内閣1918＝ 4歳：父が欧米各国における戦時地方状況調査のため欧米各国に出発し、

ベルリン条約・1919＝ 5歳：母も渡米したため、半年間、横浜の母方の祖母、叔父の家に預けられる。

大暴落・・・1920＝ 6歳：居住地近くの下落合小学校に入学。父、内務省を退職し、東京市助役となる。

原敬首相暗殺1921＝ 7歳：聖心女子学院小学部2年に編入。

関東大震災・1923＝ 9歳：父がILO日本政府代表としてジュネーヴに赴任し家族も同行。ジャン・ジャック・ルソー教育研究所付属小学校に編入。フランス語にも馴れ、スイスでの生活の楽しさを満喫する。両親の恩師で、当時国際連盟事務次長であった新渡戸稲造との接触の機会がふえる。

治安維持法・1925＝11歳：ジュネーヴ国際学校中学部に進学。

日本時代始・1926＝12歳：帰国。東中野に住む。

金融恐慌・・・1927＝13歳：自由学園、ついで成城高等女学校1年に編入。キリスト教伝道者の叔父金沢常雄の集会で聖書を学び始める。

満州事変・・・1931＝17歳：

五一五事件・1932＝18歳：成城高等女学校卒業。津田英学塾本科入学。アテネーフランセに夜通う。

国際連盟脱退1933＝19歳：\_叔父金沢常雄が多磨全生園でキリスト教の語をする際、オルガン奏者として同行、初めてらい患者に接して大きな衝撃を受ける。医師となろうと、ひそかに東京女子医専の受験勉強をするが、父の反対にあう。

芥川直木賞始1935＝21歳：津田英学塾本科卒業し、大学部に進学。肺結核発病し、軽井沢で療養中に英語科高等教員検定試験に合格。

この頃、三谷隆正に文通にて師事し、のち直接会って教える。

二二六事件・1936＝22歳：結核再発。再度療養生活に入るが、独学でギリシア語を学び、新約聖書や「自省録」を読む。

日中戦争始・1937＝23歳：人工気胸術を受け、結核治癒。津田梅子奨学金を与えられ、\_アメリカ留学の機会を得、

健保+総動員 1938＝24歳：父が丁度ニューヨーク赴任となり、家族と共に渡米、コロンビア大学大学院ギリシア文学科で学ぶ。

第二次大戦始1939＝25歳：一時キューカーの学寮バンドルーヒルで生活、生涯の親友、浦口真左に出会う。\_らい医療に進まないという条件で、父から医学の道に進むことを許され、コロンビア大学理学部・医学進学コースに入学。

大政翼賛会・1940＝26歳：日米関係の悪化や、\_日本での医師免許を取得のため、帰国。東京女子医学専門学校本科へ編入された。

日米開戦・・・1941＝27歳：太平洋戦争勃発で、父がニューヨークのエリス島に抑留される。医局員にフランス語を教わる。

・・・1942＝28歳：父が交換船で帰国。\_東大精神科医長の島崎敏樹によって精神医学への興味を触発される。

創価学会検査1943＝29歳：父が新潟県知事となり、両親は転居。\_夏季休暇中に長島愛生園で実習、光田園長から影響を受ける。

年金+総武装 1944＝30歳：\_東京女子医専卒業。東大病院精神科医局に入局。

敗戦・・・1945＝31歳：空襲で家屋全焼。東大病院精神科病棟に住み込む。父が文部大臣に就任、文部省で父の関連書類を翻訳。

新憲法公布・1946＝32歳：\_神谷宣一郎と結婚。世田谷に住む。内村祐之の「大川周明精神鑑定書」を手伝う。父に続き安倍能成文相の通訳兼翻訳者として活躍。東大精神科医局員の仕事も続ける。

新憲法施行・1947＝33歳：上北沢に転居。長男律誕生。英独仏語の家庭教師をする。

三大事件・・・1949＝35歳：目白に自宅を建て転居。宣一郎、大阪大学理学部教授として赴任。津田塾大学で語学を教え、マルクスオーアレリウスの「自省録」翻訳、出版。次男徹誕生。

朝鮮戦争始・1950＝36歳：宣一郎が研究のため渡米。アテネーフランセで仏語を教え始める。

独立回復・・・1951＝37歳：宣一郎が帰国。東大医局員を辞して芦屋に移る。神戸女学院大学の非常勤講師なる。

メーデー事件・1952＝38歳：阪大神経科に研究生として入局。カナディアン・アカデミーなどで仏語を教える。

TV放送始・1953＝39歳：徹が粟粒結核発病。仏語の私塾を自宅で始める。

自衛隊発足・1954＝40歳：神戸女学院大学助教授に就任。英語・英文学担当。仏語の私塾は続ける。

55年体制始・1955＝41歳：母が死去。「原典アメリカ史」分担執筆。初期の子宮癌が発見されたが、ラジウム照射で進行食い止める。

国連加盟・・・1956＝42歳：再度、神戸女学院大学の非常勤講師となる。\_夫宣一郎の助言もあって、らいの精神医学的研究の計画をたて、金子阪大教授の許可を得、愛生園の光田園長の了承も得る。

なべ底不況・1957＝43歳：\*長島愛生園非常勤職員として、らいの精神医学的調査を行い、定期診療に従事。

インスタントラーメン 1958＝44歳：\*愛生園で定期診療を続けながら、学位論文「癩に関する精神医学的研究」を執筆。ジルボーグ「医学的心理学史」を翻訳、みずず書房より出版。仏語の私塾は、上級クラスのみを残してやめる。

美智子妃・・・1959＝45歳：\_論文「Psychiatric Studies on Leprosy」を発表し、

安保闘争・・・1960＝46歳：\_阪大より医学博士の学位授与。神戸女学院大学社会学部教授に就任。精神医学、仏語担当。

全国総合計画1962＝48歳：父が死去。阪大助産婦学校で精神医学を教える。英文論文を発表。

TV宇宙中継始1963＝49歳：神戸女学院大学は非常勤となり、津田塾大学教授に就任。精神医学と上級仏語担当。\_宣一郎がプリンストン大学で研究したのに合せて渡米し、施設見学。帰途、英・仏に立ち寄り、ミシェル・フーコーに会う。

東京リビウツ 1964＝50歳：神戸女学院大学辞職。

大学紛争始・1965＝51歳：\_愛生園の精神科医長となる。津田塾大学は非常勤となる。「異常心理学講座」に「精神医学の歴史」執筆。外国誌にヴァージニア・ウルフ論を発表。

いざなぎ景気1966＝52歳：\*光明園でも診療。名著「生きがいについて」を出版。ウルフの病跡調査のため、イギリスに行く。

美濃部都知事1967＝53歳：愛生園精神科医長を辞し、非常勤となる。

霞ヶ関ビル・1968＝54歳：さらに青松園でも診療。津田塾大学教授に再度就任。

全共闘バウ・1969＝55歳：フーコーの「臨床医学の誕生」を翻訳出版。徳高に山荘を建てる。

大阪万博・・・1970＝56歳：フーコーの「精神疾患と心理学」の翻訳出版。

トルソック・・・1971＝57歳：宣一郎が学士院賞受賞。義母が死去。\_「人間をみつめて」を出版。最初の狭心症発作おこし、

日中国交回復1972＝58歳：内村祐之との共著で「大川周明の鑑定」を出版。\*愛生園辞任。

石油ショック1973＝59歳：狭心症で入院。「極限の人」を出版。

角栄金脈辞任1974＝60歳：宝塚に転居\_一過性脳虚血性発作(TIA)で入院。。「こころの旅」新版人間をみつめて」を出版。

クランプトン事件1975＝61歳：TIAで入院をくり返す。ハリール・ジブラーンの詩の翻訳を(婦人之友)に連載。

田中角栄逮捕1976＝62歳：津田塾大学教授辞任。膀胱ポリープ、TIA、狭心症で入院。V・ウルフ「ある作家の日記」の翻訳出版。

JALハイジャック・1977＝63歳：宣一郎が大阪大学を退官して、岡崎の基礎生物学研究所教授に就任したため、岡崎の官舎と宝塚の間を必要に応じて往復。その間、TIAで3回入院。「神谷美恵子エッセー集」刊行。

成田衝突・・・1978＝64歳：律が結婚。TIAで入院。「精神医学と人間」を刊行。

革新大敗北・1979＝65歳：\_「生きがいについて」の改訂を終える。TIAで入院して一時帰宅中に心不全発作をおこし、没した。